

海洋プラスチックごみリサイクルに向けた実証実験を実施します！

現在、海洋プラスチックごみの多くは、紫外線や風雨による損傷や汚れ、海水影響による塩分濃度などの性状の安定性といった点から、リサイクルされず焼却されているのが現状であり、プラスチック循環に向けた取組が求められています。

川崎市では、プラスチック資源循環に向けて、「かわさきプラスチック循環プロジェクト（愛称：かわプラ）」を設立して様々な事業者と連携して取り組んでいるほか、川崎臨海部における脱炭素化に向けて、カーボンニュートラルポート（CNP）の形成を推進しています。

この度、「かわプラ」参画事業者である「株式会社レゾナック」と川崎港の海面清掃により回収した海洋プラスチックごみをリサイクルする実証実験を実施します。

1 取組概要

目 的：海洋プラスチックごみをレゾナック川崎事業所 KPR（川崎プラスチックリサイクル）のケミカルリサイクル技術（ガス化）による高度リサイクルの可能性を検証する。

期 間：令和6年4月から令和7年3月まで

実施方法：川崎港の海面清掃により回収した海洋プラスチックについて、レゾナックがリサイクル及び評価検証を行う。

2 レゾナック川崎事業所 KPR プラント及びケミカルリサイクル



所在地：川崎市川崎区扇町 5-1

概 要：2003（平成15）年から容器包装リサイクル法に基づく容器包装プラスチックを化学原料にリサイクルする「川崎プラスチックリサイクル（KPR）事業」を実施している。受け入れた容器包装プラスチックは高温でガス化して分子レベルまで分解し、水素と二酸化炭素へ転換、水素の一部は近隣プラントにて化学原料向けや水素ステーションにて燃料自動車向けに活用され、そのほかは主にアンモニア原料になり合成繊維、合成樹脂、化学肥料、薬品などに生まれ変わります。一方の二酸化炭素は大気中に放出することなくグループ会社でドライアイスや炭酸飲料、医療用炭酸ガス向けの原料に使用されるなど、資源循環を実現し持続可能な豊かな社会実現に向け活躍しています。

3 その他

（1）かわさきプラスチック循環プロジェクト

<https://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000139506.html>



川崎市 HP



(2) カーボンニュートラルレポート（CNP）の形成

川崎臨海部における温室効果ガスの排出を全体として実質ゼロにすることを目指し、川崎港 CNP 形成推進協議会における企業間連携によるプロジェクト創出のほか、官公庁船としては全国初となる電気推進式の海面清掃船の導入等の取組を進めています。

<https://www.city.kawasaki.jp/580/page/0000125613.html>

※海面清掃に関しては、<https://www.city.kawasaki.jp/580/page/0000085093.html>

【問合せ先】

（かわプラに関すること）

川崎市環境局生活環境部廃棄物政策担当：山田

電 話 044-200-2557（直通）

（CNPに関すること）

川崎市港湾局港湾経営部経営企画課：三枝

電 話 044-200-3065（直通）

（海面清掃に関すること）

川崎市港湾局川崎港管理センター港営課：進藤

電 話 044-287-6031（直通）

【問合せ先】

（レゾナックに関すること）

株式会社レゾナック・ホールディングス：

ブランド・コミュニケーション部 広報グループ

電 話 03-6263-8002